GERARD LORIN・ERIC ROCHAT
présentent
CORINNE CLERY・UDO KIER・ANTHONY STEEL・JEAN GAVEN
dans

histoire d'O

“O”は愛のめざめ…“O”は女のあかし…

O(オー)嬢の物語

コリンヌ・クレリー/ウド・キール/アンソニー・スティール/ジャン・ガバン
〈カラー作品〉フランス映画 東宝東和提供

TOWA

監督ジュスト・ジャカン/脚本セバスチャン・ジャプリソ
原作ポーリーヌ・レアージュ(邦訳■角川文庫/講談社文庫/河出書房/二見書房刊)
撮影ロベール・フレッス/音楽ピエール・バシュレ〈オリジナル・サントラ盤〉ポリドール・レコード

*近日ロードショー

渋谷スカラ座(461)1929

TOWA
東宝東和提供

カラー作品■フランス映画

O(オー)嬢の物語

■20世紀フランス文学史の頂点に
花開いた文芸名作、ついに衝撃の映画化！

そのみごとな映像美に彩られたエロチシズムで全世界を席捲した、あの「エマニエル夫人」の鬼才ジュスト・ジャカン監督の待望の最新作。原作は、女の愛の真実を描き、フランス文学史に名高いポーリーヌ・レアージュの同名小説。早くからこの物語の映画化を願っていたというジャカン監督が、〈女〉を映像で語る名手としてのその豊かな才能のすべてをぶつけ、前作を上まわる華麗さで描き切ったのである。

■ヨーロッパ、アメリカで驚異的大ヒット！もり上がる〝O嬢〟ブームの真只中、原作・レコード各社競作！

フランスでは公開以来、早くも200万人を突破、ニューヨークでは、75年11月公開されるや2週間で15万人がつめかけ、あらゆる常識を破る記録的な大ヒットとなっている。こうしたブームにのって、わが国でも原作本を4社で刊行、70年代に再び世に問われた文芸名作として注目を集めている。脚本は、推理作家としても有名なセバスチャン・ジャプリゾが担当、原作のもつ不思議な魅力を忠実に再現している。

音楽は、「エマニエル夫人」で一躍ヒット・メーカーの仲間入りをしたピエール・バシュレ。ジャカン監督が描く〝女の愛の世界〟にはなくてはならないその甘美なメロディーが、映画史上、最高の競作という話題を呼んでいる。

また、パリジェンヌを夢中にした〈O嬢〉アクセサリーも発売が決定、わが国でもいよいよブームがもり上ってきた。

■世界のジャーナリズムを湧かせる話題の新星コリンヌ・クレリー

この映画化にあたって最大の難関は、主人公〝O嬢〟選びだった。美しい肢体ばかりでなく女の内面を演じられる女優をということで、ジャカン監督自から、400人にも及ぶオーディションに立ち会い、ついに発見したのが、コリンヌ・クレリーだ。あのシルビア・クリステルが、たった一作で大スターとなったように世界的に注目を集めていた〝O〟を演じ、幸運なデビューを飾った彼女は、まさに〝O〟にふさわしい魅力あふれる新人だ。その他、恋人ルネには、「悪魔のはらわた」「処女の生血」などの異色作で人気を呼んでいるウド・キールが扮している。

※

■華やかな愛の陶酔が待ちうけるロワシーの夜と昼…

〝O〟は、恋人のルネと朝もやがたちこめるモンソーの公園を散歩している。木もれ陽のなかで、〝O〟の美しい顔がいくらか緊張しているかに見える。ルネは、〝O〟を通りかかった1台の車に乗せた。車は、暗い森の中を進む。しばらくするとルネは、うるんだ目でコルセットをはずすように命令した。〝O〟が言われたようにすると、ルネは手にもっていたガーターをはめるように言った。さらにパンティも脱がせ、シートにじかに座らせ、膝を組むことや閉じることを禁じた。冷たい革のシートにじかに自分の肉体が触れたとき、〝O〟にはそれが、愛するルネの望みであること、これから行く館での規律であることを知った。

■燃えるような〝O〟の熱い息吹きが愛の極めをつたえる…

やがて車は、城ともいえる大きな、そして古風な館についた。ルネは、〝O〟のドレスの胸もとを押しひらいて、〝O〟の乳房にやさしく触れた。〝O〟が彼のなすままに体をあずけようとすると、ルネは小さなナイフを出して〝O〟のブラジャーの紐を切った。〝O〟の乳房が、やわらかく透きとおったワンピースの下で揺れた。「君は、一人で車をおり、ベルを鳴らして中に入り、人の命ずるままにするんだ。いいね。」〝O〟は、ルネの声を聞き、そして言われたとおりに高いドアの前に立った。神秘な静けさにつつまれたロワシーの森の館。

愛すればこそ高められていく女の性…哀しいまでに深い女の愛…愛しあうことのめくるめく歓び…。いま、〝O〟は甘美な愛の世界へと出発ってゆく…。

★〝幻の作家〟ポーリーヌ・レアージュ

ある日、恋人につれて行かれた美しいロワシーの館で〝O〟は世にも奇妙な性の洗礼をうける。愛する男のために儀式化された規律を守り、刑罰や男たちの共有物となることを自らの意志でうけ入れる。そしてそれらの恐怖や屈従も、いつしか言い知れぬ歓びに変ってゆく…。こうして次々と凄絶なまでに高められてゆく女の愛の物語が、甘美に、時に衝撃的にくりひろげられる原作は、1954年出版されるや全世界に戦慄にも似たセンセーションをまき起した。しかも原作者であるポーリーヌ・レアージュという名の女流作家は実名すらさだかでなく、その謎は今だに解かれてはおらず、人々の好奇心をそそっている。

★「O嬢の物語」は愛の物語だ…　ジュスト・ジャカン

かねてから私は、たったひとつやってみたい映画は「O嬢の物語」だと考えていた。「O嬢の物語」は甘美な愛の物語だからだ。「エマニエル夫人」は、ブルジョワ階級の女のセックスの形をさまざまに描いたものだが、「O嬢の物語」は愛の物語だ。魂のドラマだ。傷つかずには生きえない現代女性の起伏だ。エロチシズムは、その結果としてあらわれただけである。
（フィルム・フランセ誌／75年3月5日号）

サントラ盤〈シングル・LP〉ポリドール／主題歌オデオン（C・クレリー）／ポリドール（N・クロワジル）／バークレー（D・リカーリ）／主題曲RCA（A・ポップ）／オデオン（F・ブールセル）／フィリップス（P・モーリア）／CBSソニー（カラベリ）